国立国語研究所学術情報リポジトリ

韓国人日本語学習者を対象とした日本語の文構成能力に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): Korean Japanese learners, argument sentence, competency of arrangement sentences, competency of Japanese language, the subject to arrangement sentences 作成者: 金, 宥暻, KIM, Yu-kyeong メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001869

日本語教育論集 22（2006）

研究論文

韓国人日本語学習者を対象とした日本語の文構成能力に関する研究

An investigation into the competency of Korean learners of Japanese in the arrangement Japanese sentences

金　宥暻
KIM, Yu-kyeong

要旨

本研究の目的は，「日本語と韓国語の文構成は杉田（1994b）が主張するように異なっているかどうか」と「韓国人日本語学習者の日本語能力と日本語の文構成能力の関係」を明らかにすることである。そのため，日本人16名，韓国人64名を対象に12の論説文を配列する課題を課す方法で調査を実施した。その結果，次のことが明らかになった。(i) 杉田（1994b）の研究とは違って日本語と韓国語の文構成はよく似ている。(ii) 韓国人は日本語能力の向上につれ日本人と非常によく似た文構成パターンを示すようになる。(iii) 習得に関しては，結論部より冒頭部の文構成の習得が容易である。

キーワード：韓国人日本語学習者　論説文　文構成能力　日本語能力　文配列課題

1．問題提起

学術論文や評論で論理性の高い文章を書くためには，文法や語彙の知識を正確に運用できるというだけでは不十分である。それは，日本人なら誰でも上手に日本語の文章が書けるわけではないということからも明らかであろう。良い書き手であるためには言語能力だけでなく，文章を書くための特別な能力（文構成能力）が必要であり，その能力は第２言語（L2）のライティングにもそのまま影響を与えるのではないかと考えられてきた。Kaplan（1966）をはじめ多くの研究において「学習者の母語（L1）のライティング能力がL2のライティング能力にどのような影響を与えるか」が１つの重要な研究テーマとなってきた。しかし，その結論は必ずしも一致していない。これは，杉田（1994a）が指摘するように，(i) 言語と文化がより高次のシステムによって統括されるというKaplanの前提そのものに問題がある，(ii) 研究のほとんどが被験者に書かせた文章を分析する方法をとっているが，課題遂行に個人差があるなどの問題があるためであると考えられる。本稿ではこのような問題点を踏まえて先行研究を分析し，課題を明らかにする。その上で，研究課題を解明するに適した調査方法を探り，調査を通して研究課題を考察する。

2. 先行研究

2. 1　調査方法による3分類

L1とL2の文章構成については，調査方法によって以下の3つに分けられる。

(1)　非母語話者のL2の文章を分析することでL1，L2の文化的特徴を調べた研究（Kaplan, 1966）

(2)　異なる母語の被験者が書いたL1の文章とL2の文章を比較してL1，L2の文章の特徴を調べた研究（Oi, 1986他）

(3)　同一の被験者が書いたL1とL2の文章を比較して文章構造を分析した研究（杉田，1994a; 杉田，1994b; Kubota, 1998; Hirose, 2003他）

このうち，(1) の調査方法は，L2のテクストが，L1の文構成能力だけでなく，L2の教育や，L2の言語能力，L2のライティングだけに用いるストラテジーの影響が生じる可能性など多様な要因に影響されることから，L1の文化的特徴を論じるのには非合理的であると考える。また，(2) の調査方法は被験者が異なっても母語話者間には類似性があることを前提としているが，文章構成能力は音声や形態論のように普遍化することが難しく，より範囲が広いものと考える。また，被験者要因も多いことから，異なるグループ間の結果を基に各言語の文章の特徴を論じるのは無理がある。一方，(3) の調査方法は，同一の被験者に同一の話題を基に調査する点で (1) (2) より合理性の高いものと考える。よって，以下では，(3) のアプローチに当てはまる先行研究を概観する。

2. 2　同一の被験者によるL1とL2のテクストを比較して文章構造を分析した研究

杉田 (1994a) は，従来の研究が被験者に書かせた文章を分析するという方法をとっている点を批判し，配列課題による調査を用いた。被験者は日本語母語話者32名，英語母語話者11名で，論説文を配列する課題を課した。得られた3種類のデータ（日本語母語話者の日本語，英語母語話者の英語，英語母語話者の日本語）の違いから，「文章構造は各言語文化に固有のものか」と「学習者の文章構造は日本語能力とどのような関係があるか」を考察した。その結果，(i)「文章構造と言語文化の関連性」については，日本語母語話者の日本語と英語母語話者の英語は近い特徴を示した。この研究結果は，異なる言語話者による文の配列パターンに共通性が見られることを考察したものであり，Kaplan (1966) の対照レトリックの第1の仮説，「言語文化に特徴的なレトリック＝思考のパターン」が否定できる一つの根拠になると考える。(ii)「文章構造と日本語能力の関係」については，「文の配列」と「日本語能力」の二つの観点から探った。まず，「文の配列の観点」からは，「一般的叙述→特定の話題の叙述→主張」のパターンが全体の半数を占め，日本人はSpecific to General Patternを好み，アメリカ人はGeneral to Specific Patternを好むというOi (1986) の研究結果と反する結論に達している。「日本語能力の観点」からは，読解能力の高い学習者は論理的な文章の構造に日英間で大きな違いがなく，正の転移が有効に作用

していると報告している。

さらに，杉田（1994b）は同じ年に同じ方法を用いて「日本人と日本語学習者による日本語の文章構造の共通点と相違点」を分析している。杉田（1994b）では日本人，英語母語話者に加えて中国人，韓国人を被験者としている。調査の結果，(i) 日本人と中国人，英語母語話者は文章構造が類似する。(ii) 日本人と韓国人は文章構造が異なるという結論に達している。杉田（1994b）の研究結果の一つである「日本人と韓国人の文章構造は異なる」ということは，一般的に両言語構造は類似するといわれることに反するものであり，検証の必要があると考える。

杉田（1994a，1994b）と同様に，同一の被験者に同一の課題を課し，L1 と L2 での文構成を文化的慣習以外の側面（テクスト構成能力）から原因を探った研究に Kubota（1998），Hirose（2003）がある。

Kubota（1998）は，「同一の被験者の日本語（L1）と英語（L2）の文構成は類似するか」を解説文と論説文を書かせて検証した結果，被験者の約半分が日本語と英語において類似するパターンを用いたという結論に達している。

Hirose（2003）は，「L1，L2 の文構成の違い」を知るために，15 名の大学生を対象に論説文を書かせる調査を行った。その結果，「メインアイディアの位置」において L2 の学習者全員（15 名）と日本語母語話者のほとんど（11 名）がメインアイディアを最初に位置し，日本語は帰納法を好むという研究結果（Oi，1986 他）と反する結論に達している。

3. 研究課題

以上の先行研究をまとめると，日本語と英語の文構成能力に関して，杉田（1994b）と Hirose（2003）は近い特徴があることを主張し，Kubota（1998）は被験者の約半分が類似したと主張する点で共通する。その反面，以下のような相違点もある。

(i) Hirose（2003）は，本文の展開パターンを日本人，英語母語話者ともに「主張－理由」としている。一方，杉田（1994b）は日本人，英語母語話者，中国人，韓国人のすべてが「理由－主張」の順で本文を展開すると主張している。

(ii) 一般的に日本語と韓国語は言語体系が類似すると言われるが，杉田 (1994b) では，両言語の文構成は異なるという結論に達している。

このような相違点は，まだ不明確なままであり，さらに検証する必要がある。そこで，以下の 2 点を研究課題とした。

①日本語と韓国語の文構成は杉田（1994b）の主張するように異なっているかどうか。

②日本語能力と日本語の文構成能力は関係があるか。

4. 調査

4. 1　被験者

被験者は，日本人16名と韓国人日本語学習者64名である。日本人は，日頃から文を書く機会が多い大学の教官，非常勤講師，大学院生らである。他方，韓国人日本語学習者は，韓国の4年生大学で日本語を専攻とする者で，日本語能力に関係なく1年生から4年生で構成される。

4. 2　調査方法

調査は，被験者に12枚のカードに分けた論説文（表1）を自然な順番になるよう並べ替えさせる方法（文配列課題）によって行った。文配列課題という方法は，純粋な産出のプロセスではないことや，何を書くかについての動機付けが被験者にとって切実でないといった問題がある（杉田，1994a:32）。しかし，(i) 内容や話題を限定し分析対象を文の構成能力に絞ることができる，(ii) 被験者が用いる材料が統一しており，自由作文より客観的評価が可能である，(iii) 評価者の背景が評価に影響を与えない[1]，(iv) 被験者のライティングの動機とトピックにおける興味が調査結果に影響を与える危険が少ない，の4つの理由から談話能力の測定を目的とする研究のためのデータ収集方法として有効なものであると考える。

調査は以下の手順で実施した。韓国人には同じ課題をまずL2（日本語）で課し，1週間後にL1（韓国語）で課した。L2での文配列の際には，語彙リストを各被験者に配布している。また，日本語能力は，過去実施された日本語能力試験の中から弁別力の高い問題を選別し[2]，語彙，文法，読解から構成される40問を基に測定した。なお，時間は制限せず，タスクが終わった時点で回収した。

[表1：材料文　出典：杉田（1994a:35)]

S1	コンピュータや工場の機械は，エネルギーなしには動かせません。
S2	地球を救うためには，ひとりひとりがエネルギーの節約に努力することが大切です。
S3	ある研究機関の調査では，石油があと35年，石炭は190年，天然ガスも60年でなくなると報告されています。
S4	エネルギーのありがたさを実感するために，電気やガスを全く使わない日を作ってみたらどうでしょうか。
S5	料理をするにも，車を動かすにも，部屋を明るくするにも，エネルギーを使います。
S6	人間は世界中のエネルギーを使いつくしてしまうかもしれません。
S7	化石エネルギーには，もやしたときに出る汚染物質が地球の温暖化や酸性雨をもたらすという問題があります。
S8	化石エネルギーは，決して無限にあるものではありません。

S 9　わたしたちは，生活していく上で多くのエネルギーを必要としています。

S10　わたしたちは，エネルギーの使用についてもっと真剣に考えていくべきだと思います。

S11　わたしたちが便利さや快適さを求めれば求めるほど，環境破壊は進むといえるでしょう。

S12　石油・石炭・天然ガスなどをまとめて「化石エネルギー」と呼びます。

[表2：意味のまとまり]

まとまり	話題		役割	文の番号
1	エネルギーの必要性	一般	トピックの導入	S1，S5，S9
2	化石エネルギーの定義	特定	用語の定義	S12
3a	化石エネルギーの問題（有限性）	特定	主張を支える議論（原因）	S3，S8
3b	化石エネルギーの問題（有害性）	特定		S7
4a	化石エネルギーに関する予測（枯渇）	特定	主張を支える議論（結果）	S6
4b	化石エネルギーに関する見解（環境破壊）	特定		S11
5	エネルギー問題に関する主張	一般	主張の提示	S2，S4，S10

出典：杉田（1994a, 1994b）（筆者が「役割」の項目を加えている）

5. 分析

5. 1　分析1：日本人（日本語）と韓国人（韓国語）の文配列

まず，表3をみると日本人は「冒頭部」において，16人中12人がS1，S5，S9の3つの文を冒頭に配列し，そのうち11人がS12をその後に続けている。残りの4人は全員S12を冒頭に配列しているが，そのうち2人は直後にS1，S5，S9の3つの文を配列している。他の二人はこの3つの文を文章の中程に配列しているが，3つの文を分散させずに1カ所に固めて配列している点は他の日本人と同じである。S1，S5，S9の3つの文の中では，被験者全員がS9を最前列に配列し，S1とS5は任意の順番で配列している。これらの結果から，日本人の好む冒頭文の配列は次の順と考えられる。

[表3：日本人の文配列]

日本語母語話者（NO. J1-J16）

文の順序	J1	J2	J3	J4	J5	J6	J7	J8	J9	J10	J11	J12	J13	J14	J15	J16
1	S12	S9	S12	S9	S9	S9	S9	S9	S12	S12	S9	S9	S9	S9	S9	S9
2	S9	S5	S9	S1	S1	S1	S5	S5	S7	S8	S5	S1	S1	S1	S5	S1
3	S5	S1	S5	S5	S5	S5	S1	S1	S11	S3	S1	S5	S5	S5	S1	S5
4	S1	S12	S1	S12	S12	S12	S12	S12	S8	S6	S12	S6	S12	S12	S12	S12
5	S8	S7	S8	S7	S8	S8	S8	S8	S3	S9	S8	S12	S8	S8	S7	S8
6	S3	S11	S3	S8	S3	S3	S3	S3	S9	S1	S3	S8	S3	S3	S11	S3
7	S6	S8	S6	S3	S6	S6	S6	S6	S1	S5	S6	S3	S6	S7	S8	S6
8	S2	S3	S7	S6	S7	S7	S7	S10	S5	S11	S7	S2	S7	S11	S3	S7
9	S7	S6	S11	S11	S11	S11	S11	S7	S6	S7	S11	S4	S11	S6	S6	S11
10	S11	S2	S2	S10	S2	S2	S2	S11	S10	S10	S10	S7	S2	S10	S2	S10
11	S10	S10	S10	S2	S10	S10	S4	S2	S2	S4	S4	S11	S10	S2	S4	S4
12	S4	S4	S4	S4	S4	S4	S10	S4	S4	S2	S2	S10	S4	S4	S10	S2

（薄い網掛け）：冒頭部　（太枠）：定義文　（白枠）：本文　（濃い網掛け）：結論部

S9 → [S1 / S5] → S12 →

「結論部」は，16 人中 13 人が S2，S4，S10 の 3 つの文を配列している。3 つの文の中では 16 人中 10 人が S4 を一番後ろに配列しているが，冒頭の S9 ほど顕著な傾向とは言えない。この結果から，日本人の好む結論部の配列は次の順と考えられる。

→ [S2 / S4 / S10]

「本文」は，16 人中 13 人が S3，S6，S8 の 3 つの文を 1 カ所に，同じく 15 人が S7，S11 を 1 カ所に固めて配列している。前者 3 つの文（S3，S6，S8）の配列は，1 カ所に固めて配列した 13 人全員が S8 → S3 → S6 の順であり，この 3 つの文を分散させて配列した 3 人のうち 2 人もこの順番である。S7 と S11 についても 15 人中 14 人が S7 → S11 の順に文を配列しており，唯一分散して配列した被験者（J4）も S7 を S11 の前に配列している。この二つの固まりの配列については，16 人中 12 人が前者（S3，S6，S8）を後者（S7，S11）より前に配列している。この結果から，日本人の好む本文の配列は次の順と考えられる。

→ S8 → S3 → S6 → S7 → S11 →

以上をまとめると，日本人の好む文配列は次の順となる。

S9 → [S1 / S5] → S12 → [S8 → S3 → S6] → [S7 → S11] → S2 / S4 / S10

一方，表 4 をみると，韓国人（韓国語）は「冒頭部」において 1 ／ 3 以上が S1，S5，S9 の 3 つの文を冒頭に配列し，その後に S12 を配列している。S1，S5，S9 の 3 つの文の中では 2 ／ 3 以上が S9 を最前列に配列し，S1 と S5 は任意の順番で配列している。これは，日本人の配列と同じである。「結論部」は 1 ／ 3 以上が S2，S4 の 2 つの文を配列し，日本人と類似する傾向があるといえるが，冒頭部ほど明らかではない。「本文」は，ゆれ（個人差）が大きく，全体の傾向を論じることは難しい。以上をまとめると，韓国人の好む文配列は次の順と考えられる。

S9 → [S1 / S5] → S12 → 〜〜〜〜〜 → S2 / S4

[表 4 ：韓国人全体（韓国語）の文配列]

文の番号

文の順序	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9	S10	S11	S12
1			3名						50名	4名	1名	6名
2	21名	1名		5名	26名			2名	7名			2名
3	24名	1名	1名	1名	26名	1名		2名	1名		1名	6
4	6名		2名	6名	7名	5名	3名	3名	2名	4名	2名	24名
5	3名		8名	3名	1名	5名	12名	13名	1名	4名	4名	10名
6	1名	4名	14名	1名	3名	6名	6名	11名			14名	4名
7	2名	3名	12名	1名		18名	7名	9名	2名	4名	4名	2名
8	2名	7名	8名	4名		12名	6名	6名		11名	4名	4名
9	4名	2名	11名	4名		6名	15名	7名		3名	10名	2名
10		6名	5名	6名	1名	4名	9名	4名	1名	10名	15名	3名
11		22名		7名		6名	6名	7名		10名	5名	1名
12	1名	18名		26名		1名				14名	4名	

5. 2　分析２（２－１）：学習者の日本語能力別にみた日本語の文配列

「分析２－1」では韓国人を日本語能力別に下位群，中位群，上位群に分け，日本語の文配列を分析した。下位，中位，上位の分類は韓国人日本語学習者 64 名の成績を順に並べ，25%（16 名）－ 12.5%（8 名）－ 25%（16 名）－ 12.5%（8 名）－ 25%（16 名）に分類し，間の 12.5%を削除した残りに対してそれぞれ下位，中位，上位とした。12.5%を削除した理由は，わずかな点数の差でグループ化されることを避けるためである。

［表５：下位群の日本語の文配列］

韓国人日本語学習者（下位群:NO. KL1-KL16）

文の順序	KL1	KL2	KL3	KL4	KL5	KL6	KL7	KL8	KL9	KL10	KL11	KL12	KL13	KL14	KL15	KL16
1	S1	S7	S11	S6	S6	S9	S10	S3	S12	S4	S11	S8	S12	S9	S3	S9
2	S2	S1	S8	S9	S8	S5	S5	S6	S1	S1	S12	S12	S1	S1	S4	S5
3	S3	S4	S12	S5	S4	S4	S2	S12	S9	S7	S8	S5	S5	S4	S5	S1
4	S10	S3	S6	S7	S10	S12	S9	S9	S5	S6	S3	S11	S9	S12	S7	S11
5	S11	S6	S10	S2	S1	S6	S3	S7	S8	S9	S7	S7	S7	S11	S6	S6
6	S4	S9	S2	S12	S5	S7	S7	S8	S10	S3	S2	S1	S11	S5	S8	S12
7	S9	S10	S5	S3	S9	S3	S8	S4	S11	S10	S1	S2	S10	S10	S9	S8
8	S6	S8	S9	S8	S7	S1	S11	S10	S7	S12	S9	S10	S6	S6	S2	S2
9	S8	S2	S4	S11	S3	S8	S1	S11	S4	S11	S10	S9	S8	S7	S1	S4
10	S5	S5	S7	S4	S12	S2	S4	S1	S3	S8	S6	S3	S3	S2	S12	S7
11	S7	S12	S1	S1	S2	S11	S12	S2	S6	S5	S5	S4	S2	S3	S11	S3
12	S12	S11	S3	S10	S11	S10	S6	S5	S2	S2	S4	S6	S4	S8	S10	S10

□：冒頭部　□：定義文　□：本文　■：結論部

［表６：中位群の日本語の文配列］

韓国人日本語学習者（中位群：NO. KM1-KM16）

文の順序	KM1	KM2	KM3	KM4	KM5	KM6	KM7	KM8	KM9	KM10	KM11	KM12	KM13	KM14	KM15	KM16
1	S6	S9	S9	S9	S3	S9	S12	S9	S9	S12	S12	S9	S9	S3	S12	S9
2	S5	S5	S5	S1	S4	S3	S9	S1	S1	S9	S8	S5	S1	S12	S7	S5
3	S11	S1	S12	S5	S5	S12	S5	S5	S5	S5	S3	S12	S5	S8	S11	S1
4	S1	S12	S7	S12	S7	S4	S11	S4	S4	S1	S9	S8	S6	S7	S2	S10
5	S8	S8	S11	S7	S6	S5	S8	S10	S10	S4	S5	S3	S10	S5	S3	S12
6	S10	S3	S8	S6	S8	S1	S3	S12	S12	S8	S1	S6	S2	S1	S8	S8
7	S2	S6	S3	S8	S9	S7	S6	S7	S8	S3	S6	S1	S4	S9	S9	S3
8	S3	S10	S1	S3	S2	S8	S1	S11	S3	S6	S4	S4	S12	S6	S1	S6
9	S12	S7	S6	S10	S1	S10	S7	S8	S6	S2	S11	S7	S8	S2	S5	S4
10	S4	S11	S4	S11	S12	S11	S10	S3	S7	S7	S10	S11	S3	S4	S6	S7
11	S7	S4	S2	S2	S11	S6	S4	S6	S11	S11	S7	S10	S7	S10	S10	S11
12	S9	S2	S10	S4	S10	S2	S2	S2	S2	S10	S2	S2	S11	S11	S4	S2

□：冒頭部　□：定義文　□：本文　■：結論部

［表７：上位群の日本語の文配列］

韓国人日本語学習者（上位群：NO. KH 1- KH 16）

文の順序	KH1	KH2	KH3	KH4	KH5	KH6	KH7	KH8	KH9	KH10	KH11	KH12	KH13	KH14	KH15	KH16
1	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9	S9
2	S4	S1	S1	S1	S5	S1	S1	S1	S5	S5	S5	S1	S1	S5	S12	S1
3	S1	S5	S5	S5	S1	S5	S5	S5	S1	S1	S1	S5	S5	S1	S1	S5
4	S5	S12	S12	S12	S12	S12	S12	S12	S10	S12	S12	S12	S12	S12	S5	S12
5	S10	S7	S7	S3	S8	S7	S3	S8	S12	S7	S8	S8	S8	S7	S6	S8
6	S6	S11	S11	S8	S3	S11	S8	S3	S8	S11	S3	S3	S3	S11	S8	S3
7	S12	S8	S10	S6	S6	S2	S6	S7	S3	S8	S6	S6	S6	S8	S3	S6
8	S8	S3	S4	S7	S10	S8	S10	S11	S6	S3	S7	S2	S7	S3	S11	S7
9	S3	S6	S8	S11	S4	S3	S11	S6	S4	S6	S11	S4	S11	S6	S7	S11
10	S7	S4	S3	S10	S7	S6	S7	S10	S7	S10	S2	S7	S4	S10	S2	S10
11	S11	S2	S6	S2	S11	S10	S2	S2	S11	S2	S10	S11	S2	S2	S10	S2
12	S2	S10	S2	S4	S2	S4	S4	S4	S2	S4	S4	S10	S10	S4	S4	S4

□：冒頭部　□：定義文　□：本文　■：結論部

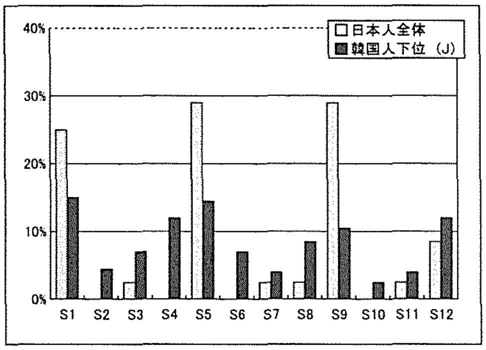
まず，下位群の配列（表 5）を見ると，5 つのまとまりが乱れており，全体的な傾向と言えるようなものが特に見当たらない。中位群の配列（表 6）を見ると，「S1，S5，S9」や「S12」の文章が前方に移行し，「S2，S4，S10」や「S7，S11」の文章が後方に移行していることがわかる。しかし，まだ全体的な統一性はなく，下位群に比べると，日本人の配列に近づいてきたという程度である。しかし，上位群の配列（表 7）は日本人のそれにかなり近い。というのは，16 人中 14 人が S1，S5，S9 の 3 つの文を冒頭に配列しており，全員

がS9で文章を始めている。また，そのうち13人がこの3つの文の後にS12を配列している。これは日本人の文配列（表3）と同じである。16人中9人がS2，S4，S10の3つの文を末尾に配列しているが，これは日本人の13人より少なく，S4やS10を前方に配列している被験者もいる。文章の本文に配列される5つの文（S3，S6，S7，S8，S11）は，日本人同様，S3，S6，S8と，S7，S11という2つの固まりに分けて使われている。S7とS11については16人中14人がS7→S11の順で配列しているが，S3，S6，S8の3つの文については，日本人の配列順であるS8→S3→S6以外に，S6→S8→S3（2人）やS3→S8→S6（2人）という配列も観察される。

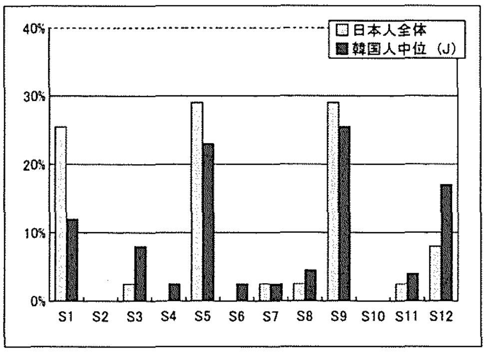
さらに，以上の結果を「冒頭部」「結論部」「本文」に分けて分析を深めた（分析2－2，分析2－3，分析2－4）。

5．3　分析2（2－2）：学習者の日本語能力別にみた冒頭部（日本語）

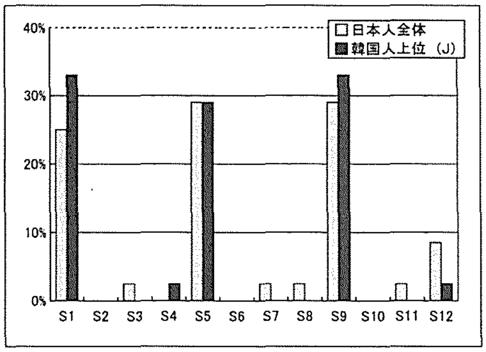
「冒頭部」では，韓国人日本語学習者が文章の冒頭（3文）にどの文を配列したかをレベル別に分けて表示した（図1～3）。その結果，母語話者ではS1，S5，S9の3つの文が全体の83.4%を占めているが，韓国人学習者の下位群では39.6%，中位群では60.4%にとどまっている。それに対し，上位群では95.8%と母語話者よりもこの3つの文を選択する割合が高くなり，下位，中位，上位とレベルが上がるにつれて母語話者とよく似た傾向を示すようになっている。



［図1：日本人全体と韓国人下位群］



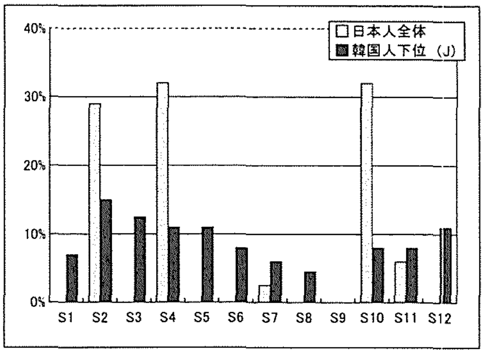
［図2：日本人全体と韓国人中位群］



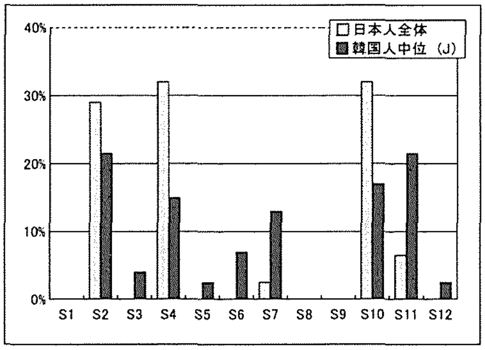
［図3：日本人全体と韓国人上位群］

5. 4　分析２（2 － 3）：学習者の日本語能力別にみた結論部（日本語）

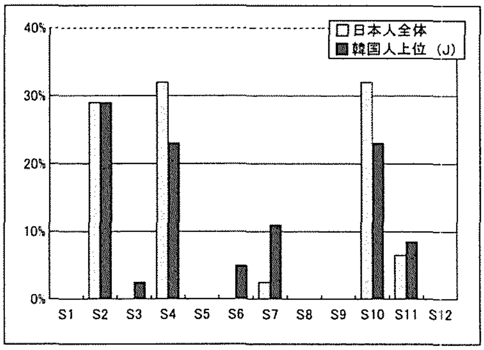
「結論部」では，韓国人日本語学習者が文章の末尾（3 文）にどの文を配列したかをレベル別に分けて表示した(図４～６)。その結果，母語話者では S2，S4，S10 の 3 つの文が全体の 91.8% を占めているが，韓国人学習者の下位群では 33.3%，中位群では 52.1% にとどまっている。それに対し，上位群は 75.0% と，着実に母語話者の数値に近づき，下位，中位，上位とレベルが上がるにつれて母語話者とよく似た傾向を示すようになっている。



［図４：日本人全体と韓国人下位群］



［図５：日本人全体と韓国人中位群］



［図６：日本人全体と韓国人上位群］

5. 5　分析２（2 － 4）：本文の文配列

次に，本文の構成について見てみる。表 2 で提示したように，ここでは「化石エネルギーの問題（3a）と予測（4a）」と「化石エネルギーの問題（3b）と見解（4b）」の 2 つのトピックを取り上げている。

「分析 1」において，日本語母語話者の好む文配列は，次の通りであった。

[S9 → ［S1 / S5］] → S12 → [［S8 → S3 → S6］ → ［S7 → S11］] → [S2 / S4 / S10]

これを本文のみに焦点を当てると，日本人は次の順を好むことが分かる。

[［S8 → S3 → S6（3a-4a）］ → ［S7 → S11（3b-4b）］]

p7 の表 2 で示した通り，それぞれの役割は，［3a（S8，S3）：エネルギーの有限性（原因）］－［4a（S6）：枯渇（結果）］，［3b（S7）：エネルギーの有害性（原因）］－［4b（S11）：環境破壊（結果）］である。次ページ表 8 の日本人の文配列から，日本人は「原因－結果」の順で論を進める傾向があると考えられる。

［表8：日本人の本文］

日本語母語話者（NO. J1-J16）

文の順序	J1	J2	J3	J4	J5	J6	J7	J8	J9	J10	J11	J12	J13	J14	J15	J16
1																
2									3b	3a						
3									4b	3a						
4									3a	4a		4a				
5	3a	3b	3a	3b	3a	3a	3a	3a	3a		3a		3a	3a	3b	3a
6	3a	4b	3a	3a	3a	3a	3a	3a			3a	3a	3a	3a	4b	3a
7	4a	3a	4a	3a	4a	4a	4a	4a			4a	3a	4a	3b	3a	4a
8		3a	3b	4a	3b	3b	3b			4b	3b		3b	4b	3a	3b
9	3b	4a	4b	4b	4b	4b	4b	3b	4a	3b	4b		4b	4a	4a	4b
10	4b							4b				3b				
11												4b				
12																

3a: S3, S8　4a: S6　3b: S7　4b: S11（表9、表10、表11においても同様）

［表9：韓国人日本語学習者下位群の日本語の本文］

韓国人日本語学習者（下位群：NO. KL1-KL16）

文の順序	KL1	KL2	KL3	KL4	KL5	KL6	KL7	KL8	KL9	KL10	KL11	KL12	KL13	KL14	KL15	KL16
1		3b	4b	4a	4a			3a			4b	3a			3a	
2			3a		3a			4a								
3	3a									3b	3a					
4		3a	4a	3b						4a	3a	4b			3b	4b
5	4b	4a				4a	3a	3b	3a		3b	3b	3b	4b	4a	4a
6						3b	3b	3a		3a			4b		3a	
7				3a		3a	3a		4b							3a
8	4a	3a		3a	3b		4b		3b				4a	4a		
9	3a			4b	3a	3a		4b		4b			3a	3b		
10			3b						3a	3a	4a	3a	3a			3b
11	3b					4b			4a					3a	4b	3a
12		4b	3a		4b		4a					4a		3a		

［表10：韓国人日本語学習者中位群の日本語の本文］

韓国人日本語学習者（中位群：NO. KM1-KM16）

文の順序	KM1	KM2	KM3	KM4	KM5	KM6	KM7	KM8	KM9	KM10	KM11	KM12	KM13	KM14	KM15	KM16
1	4a				3a									3a		
2						3a					3a				3b	
3	4b										3a			3a	4b	
4			3b		3b		4b					3a	4a	3b		
5	3a	3a	4b	3b	4a		3a					3a			3a	
6		3a	3a	4a	3a		3a			3a		4a			3a	3a
7		4a	3a	3a		3b	4a	3b	3a	3a	4a					3a
8	3a			3a		3a		4b	3a	4a				4a		4a
9		3b	4a				3b	3a	4a		4b	3b	3a			
10		4b		4b		4b		3a	3b	3b		4b	3a		4a	3b
11	3b				4b	4a		4a	4b	4b	3b		3b			4b
12													4b	4b		

［表11：韓国人日本語学習者上位群の日本語の本文］

韓国人日本語学習者（上位群：NO. KH1-KH16）

文の順序	KH1	KH2	KH3	KH4	KH5	KH6	KH7	KH8	KH9	KH10	KH11	KH12	KH13	KH14	KH15	KH16
1																
2																
3																
4																
5		3b	3b	3a	3a	3b	3a	3a		3b	3a	3a	3a	3b	4a	3a
6	4a	4b	4b	3a	3a	4b	3a	3a	3a	4b	3a	3a	3a	4b	3a	3a
7		3a		4a	4a		4a	3b	3a	3a	4a	4a	4a	3a	3a	4a
8	3a	3a		3b		3a		4b	4a	3a	3b		3b	3a	4b	3b
9	3a	4a	3a	4b		3a	4b	4a		4a	4b		4b	4a	3b	4b
10	3b		3a		3b	4a	3b		3b			3b				
11	4b		4a		4b				4b			4b				
12																

一方，学習者の場合，下位群（表9）では順番が乱れ，さらに3aの（S3，S8）というまとまりも分離している。中位群（表10）では順番は乱れているが，3aの分離が少なくなっている。上位群（表11）になると，日本語母語話者と同様［3a-4a］［3b-4b］の順番となり，真ん中に集中していることが分かる。さらに3aの分離もなくなっている。

[表 12: 日本人と韓国人（日本語，韓国語）の本文の文配列]

まとまり	日本人	日本語			韓国語		
		韓・下	韓・中	韓・上	韓・下	韓・中	韓・上
[3a-4a] [3b-4b]	81.25%	0%	50%	75%	25%	25%	81.25%
[4a-3a] [4b-3b]	0%	0%	0%	6.25%	6.25%	0%	0%
[3a-3b] [4a-4b]	0%	0%	6.25%	0%	0%	0%	0%
[4a-4b] [3a-3b]	0%	6.25%	6.25%	0%	0%	0%	0%
その他	18.75%	93.75%	37.5%	18.75%	68.75%	75%	18.75%

表 12 の通り，これらは数値の上でも明らかである。日本人の 81.25% が [3a-4a] [3b-4b] を 1 カ所に固めて配列している。一方，韓国人においては下位群では 0%，中位群では 50%，上位群では 75% であり，着実に母語話者の数値に近づいていることがわかる。しかし，同じ現象は韓国人の日本語だけでなく，韓国語においても現れる。L1 から L2 への影響はよく論議されるが，それとは逆に L2 から L1 へ影響を与えることもあるのであろうか。そこで，韓国語の本文の文配列について分析してみた（分析 3)。

5. 6　分析 3 ：学習者の日本語能力別にみた韓国語の本文の文配列

韓国人の韓国語は日本語と同様，下位群（表 13）では順番が乱れ，さらに 3a(S3，S8) も分離している。中位群(表 14)では順番は乱れているが，3a の分離が少なくなっている。上位群（表 15）になると，[3a-4a] [3b-4b] の順番となり，さらに 3a の分離もなくなり，真ん中に集中していることが分かる。

[表 13 : 下位群の韓国語本文の文配列]

韓国人日本語学習者（下位群：NO. KL1-KL16）

文の順序	KL1	KL2	KL3	KL4	KL5	KL6	KL7	KL8	KL9	KL10	KL11	KL12	KL13	KL14	KL15	KL16
1			4b												3a	
2										3a						
3											3a					
4				4a	3a					3a	3a				3a	4a
5	4a	3b	3a		3a	3b		4b	3a			3a	3b	4a	4a	
6	3a	4b		3a	4a	4b		3a	3b			4a	4b		3b	4b
7			4a	3a		3a	3b	3b	4b		4a	3a		3b		
8	3a	3a		3b	3b	4a	3a	3a	3a				4a			
9	4b	4a		4b	4b	3a	3a		4a	4a	3b		3a	3a		3a
10	3b		3b					4a			4b	4b	3a	4b		3a
11		3a	3a				4a			3b		3b		3a	4b	3b
12							4b			4b						

3a: S3, S8　4a: S6　3b: S7　4b: S11　(表 14、表 15においても同様)

[表 14 : 中位群の韓国語本文の文配列]

韓国人日本語学習者（中位群：NO. KM1-KM16）

文の順序	KM1	KM2	KM3	KM4	KM5	KM6	KM7	KM8	KM9	KM10	KM11	KM12	KM13	KM14	KM15	KM16
1					3a									3a		
2											3a					
3	4b										3a					
4			3b		3b		4b					3a	4a			
5	4a	3a	4b	3b	4a	3b	3a	3b		4b		3a			3a	
6		3a	3a	4b	3a	4b	3a	4b	3a		4b	4a		4a	4a	3a
7	3a	4a	3a	3a		3a	4a	3a	3a	3b	4a				3a	4a
8			4a	4a		4a		4a	4a						3b	3a
9	3b	3b		3a			3b	3a	3b	3a			3a		4b	3b
10		4b			4b				4b	3a		3b	3a	3a		4b
11	3a					3a				4a	3b	4b	3b	3b		
12													4b	4b		

[表 15：上位群の韓国語本文の文配列]

韓国人日本語学習者（上位群：NO. KH1-KH16）

文の順序	KH1	KH2	KH3	KH4	KH5	KH6	KH7	KH8	KH9	KH10	KH11	KH12	KH13	KH14	KH15	KH16
1																
2																
3																
4								4a								
5			3b	3a	3a	3b	3a			3b	3a	3a	3a	3b	3b	3a
6	4a	3b	4b	3a	3a	4b	3a		3a	4b	3a	3a	3a	4b	4b	3a
7	3a	4b		4a	4a		4a	3a	3a	3a	4a	4a	4a	3a	3a	4a
8		3a	3a	3b		3a		3a	4a	3a			3b	3a	3a	3b
9	3a	3a	3a	4b		3a	4b	3b		4a	3b	3b	4b	4a	4a	4b
10	3b	4a	4a		3b	4a	3b	4b	3b		4b	4b				
11	4b				4b				4b							
12																

このように，韓国人が韓国語で文を構成しているにもかかわらず日本語能力による違いが生じる理由は何を意味しているのであろうか（疑問点 1）。この疑問点を解決するために，杉田（1994b）と照らし合わせて考察を行う。

6. 考察

考察は，杉田（1994b）に照らし合わせ，「冒頭文」「結論部」「文配列」を基に行う。

[表 16：冒頭「文」]

	本研究			杉田（1994b）		
	日本人	韓・上（日）	韓・上（韓）	日本人	韓・上（日）	米・上（日）
S1	0%	0%	0%	6.25%	0%	7.69%
S5	0%	0%	0%	0%	0%	15.38%
S9	75%	100%	100%	87.5%	70%	53.85%
S10	0%	0%	0%	3.13%	0%	7.69%
S8	0%	0%	0%	0%	0%	7.69%
S12	25%	0%	0%	3.13%	30%	7.69%

[表 17：結論部]

	本研究			杉田（1994b）		
	日本人	韓・上（日）	韓・上（韓）	日本人	韓・上（日）	米・上（日）
S2，S4，S10	81.25%	56.25%	37.50%	56.25%	40%	23.08%

表 16 の冒頭「文」においては本研究と杉田（1994b）でほとんど変わらず S9 が最初に配列する比重が高い。表 17 の結論部は，杉田（1994b）に比べ本研究での割合が全体で高い。また，同じ日本語母語話者であるにもかかわらず本研究では 81.25% であるのに対し，杉田では 56.25% であることは何を意味しているのであろうか（疑問点 2）。

さらに，杉田（1994b）は，各被験者の文配列を次のようにまとめて提示している（表 18）。

[表 18：各被験者の文配列]

日本人	[9/1/5] － [12] － [8/3-6] － [7/11] － [2/4/10]
中国人＆英語母語話者	[9/1/5] － [4/10] － [12] － [8/3-6] － [7/11] － [2(10)]
韓国人	[12] － [8/3-6] － [9/1/5] － [7/11] － [2/4/10]

＊出典：杉田（1994b）

表 18 は，杉田（1994b）による日本人，中国人，英語母語話者，韓国人の文配列である。表 18 をみると，韓国人は文頭に S12 を配列している。しかし，表 16 では，韓国人日本語学習者が S12 を冒頭に配列したのは 30%だけであり，残りの 70%は S9 を冒頭に配列している。また，本研究における調査の結果 S12 を冒頭に配列した韓国人は一人もいなかった。他方，本研究では日本人においても 25%が S12 を冒頭に配列している。このことから考えて,「日本人と韓国人の文構成が異なる」という杉田の主張には疑問を感じざるを得ないが，杉田はこのことについてはまったく触れていない。

7. 結論

以上の考察を基に，次のような結論に達した。

(1) 本研究の結果，杉田（1994b）の研究とは違って，日本語と韓国語の文構成パターンはよく似ている。

(2) 韓国人は日本語能力の向上につれ日本人と非常によく似た文構成パターンを示すようになる。

ただ，(2) に関しては，日本語能力の向上とともに母語の文構成能力を発揮できるようになっただけだという解釈も可能であろう。しかし，韓国人が母語で同じ課題をした場合にも，日本語能力の違いによって文構成パターンに違いが見られたという点は重要である。韓国人が母語の言語能力を発揮して課題に取り組んだのであれば，上位群と下位群で文構成パターンに違いがないはずであるが，実際は違いが観察された。母語での課題においても上位群と下位群との間に日本語と同じような文構成パターンの発達過程が観察されたのはなぜであろうか。一つの可能性としては、文構成能力は、L1 と L2 でその根底はつながっており、L1 の文構成能力が L2 の文構成能力に影響を与えるだけでなく、L2 の文構成能力が L1 の文構成能力に影響を与えたということが考えられる。Cummins (1981) の「言語相互依存仮説」でも同様の指摘がなされているが，本研究では根拠となるデータが不足しているため，ここで断定的な言い方をすることは避けたい。もう一つの可能性としては，日本語能力ではなく，論説文に接した経験値の差が影響を与えたという解釈も考えられる。今回の調査で被験者となったのは韓国の大学で日本語を学ぶ学生たちであるため，下位群は実質的に学部の 1 ～ 2 年生たちであり，上位群は 3 ～ 4 年生が中心である。すなわち，学年が上がるにつれ論説文に接する機会が多くなることから，日本語能力の他に論説文に接した経験値（研究など学術的な目的のための読み書き経験）による影響が現れたと考え

ることもできるのである。同様のことは，杉田（1994b）と本調査における日本人の差からも考えられる。すなわち，杉田の被験者は学部生 23 名，大学院生 9 名で構成され，本調査では 16 名全員が大学院生または大学院卒業生であるため，本調査における日本人は杉田の被験者に比べて論説文に接した経験が多いと考えられる。

（2）の結果から「文構成能力＝日本語能力＋論説文に接した経験値」という式が考えられる。2 つの要因中最も影響度の強い要因を特定することはできないが，経験値の影響は弱くないと考えることができる。L2 の作文の質には，L2 の言語能力，L1 のライティング能力の他に L2 の作文経験が影響を与えるという指摘は Kubota（1998），Sasaki and Hirose（1996）にもあるが，すべて予測に過ぎないものであるため，今後更なる検討が必要である。

（3） さらに，習得に関しては，冒頭部が結論部より偏りが強いことから，結論部より冒頭部の文構成の習得が容易であると推測できる。

8. 今後の課題

本研究では，今まで不明瞭であった「日本語と韓国語の文構成は異なっているかどうか」と「韓国人日本語学習者の日本語能力と日本語の文構成能力の関係」について検証した。しかし，後者の学習者の日本語能力や論説文に接した経験値が日本語の文構成能力に与える影響の度合いについてはまだ課題として残っている。これについては今後の課題としたい。

注

1 Kobayashi & Rinnert（1996）は，評価者の背景は EFL Compositions の評価に重大な影響を与えると報告している。

2 本研究における日本語能力テストは 40 問で構成されるが，より信頼性の高いものにするために，過去行われた日本語能力試験の分析結果（社団法人日本語教育学会編（1996）『日本語能力試験の概要 1995 年版』国際交流基金・財団法人日本国際教育協会）を基に弁別力が高いとされた問題のみを基に作成した。

参考文献

杉田くに子（1994a）「学習者の日本語での文章構造の背景」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』17 号，31-47.

杉田くに子（1994b）「日本語母語話者と日本語学習者の文章構造の特徴－文配列に現れた話題の展開—」『日本語教育』84 号，14-26，日本語教育学会 .

Cummins, J. (1981) "The role of primary language development in promoting educational success for language minority students" *In Schooling and language minority students: A theoretical framework*, 30-49, Los Angeles: Evaluation, Dissemination and Assessment

Center, California State University.

Hirose, K. (2003) "Comparing L1 and L2 organizational patterns in the argumentative writing of Japanese EFL students" *Journal of Second Language Writing*, vol.12, 181-209.

Kaplan, R. B. (1966) "Cultural thought patterns in inter-cultural education" *Language Learning*, vol.16, 1-20.

Kubota, R. (1998) "An investigation of L1-L2 transfer in writing among Japanese university students: Implications for contrastive rhetoric" *Journal of Second Language Writing*, vol.7 (1), 69-100.

Kobayashi, H. & Rinnert, C. (1996) "Factors affecting composition evaluation in an EFL context: Cultural rhetorical pattern and readers' background" *Language Learning*, vol.46 (3), 397-437.

Oi, K. (1986) "Cross-cultural differences in rhetorical patterning: A study of Japanese and English" *JACET Bulletin*, vol.17, 23-48.

Sasaki, M. & Hirose, K. (1996) "Explanatory variables for EFL students' expository writing" *Language Learning*, vol.46 (1), 137-174.

謝辞

本稿の執筆にあたり，多大なご指導，ご助言をいただきました九州大学の小山悟先生に心より感謝申し上げます。また，九州大学の松永典子先生及び実験実施にご協力下さった皆様に心より感謝申し上げます。